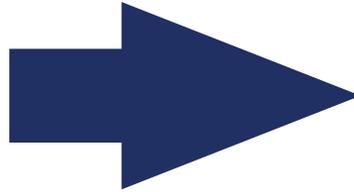


## <教育利用> ③ 言葉をイメージに 画像生成を通じた自己表現のメタ認知

6年 国語「季節の言葉3 秋深し」

①導入時に文書生成AIに生成させた秋の俳句「紅葉舞う 秋風さらさら 心落ちつ」を鑑賞する。子どもたちは感想交流をしていく中で、この句の課題に気付いていく。「季節が2つあるよ。伝えたいことはわかるけど、直接的すぎる。」「『心落ちつ』ってリズムが悪いし、意味が分かりにくいなあ。」と批判的に読み取っていく。

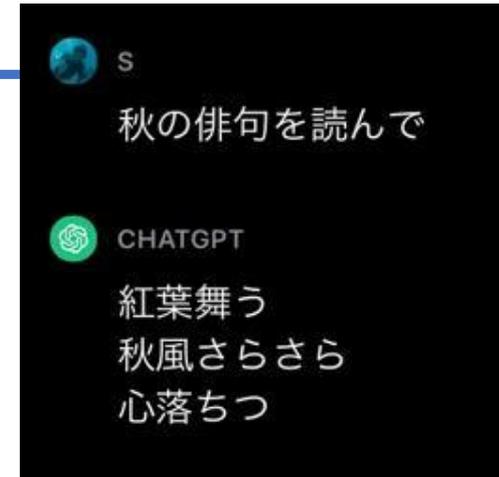
創作の工夫  
文書生成AI



挿絵の生成  
画像生成AI

- ②語感や言葉の使い方を吟味しながら短歌や俳句を作っていく。「さんまって使うとそのまますぎるし、漢字にすると秋がはいってしまうからもっと直接的になってしまう…。焼さんまには大根おろしが合うから、「大根おろし」という言葉を使ってさんまを表してみよう。」と想像力をはたらかせる児童も見られた。
- ③吟味を重ねた俳句を授業支援アプリで全体共有し、互いに添削、コメントしていく。さらに磨きがかかった表現にしたものを提出する。
- ④次に児童は、完成した作品を画像生成AIに流し込み挿絵を生成する。「先生！『燃える木々』という表現をそのまま流し込んだら山火事のような、炎上している絵になってしまいました！」という児童もあり、隠喩は生成AIには伝わりにくいところがあるため、意図した表現になるように試行錯誤しながらプロンプトを調整する必要があることを説明した。画像生成していく過程で、伝えたい表現にするために言葉を補ったり、言い換えたりしていくことで語彙を豊かにしていく様子が見られた。
- ⑤授業後の振り返りでは、

「AIで画像生成するのはとても便利であるが、間違った使い方をすると自分の学びにとってよくないかもしれないから気を付けて使いたい。」「今後も授業で生成AIを使ってさらに理解を深めていけると思った。」など生成AIとの付き合い方に関する記述をした児童が41%いた。学習内容のみならず、AIとの付き合い方について考えを深めることもできると考えられる。



使い言葉を使わずに伝えるというの難しかったけれど、いい作品ができて良かった。

秋の幸  
大根おろしの  
大親友

秋を俳句や短歌に表しましょう。



秋という言葉を使わずに空気を表現するのはとても難しかったけれど自分の表現力が上がった気がするので自分にとってとてもいい経験だったと思います。

明瞭な  
無数の光  
秋の宵

秋を俳句や短歌に表しましょう。